



稲穂いなほ

仙南小学校
H29. 10. 6

No. 27

指導主事計画訪問

(少人数学習等加配校訪問)

9月27日に2名の指導主事をお迎えして、全学年の授業と2年2組・4年1組の算数の授業を参観頂き指導を仰ぎました。その際、「友だちとの交流ができていて学び合う授業が成立している」「児童のつぶやきを大事にして取り上げ、授業を構成している」などのお褒めの言葉を頂きました。



第55回全国防具付空手道選手権大会

組手 小学5年生女子の部 準優勝 ○○○○

9月23日に行なわれた大会です。今後も精進し頂点を目指して下さい。



サツマイモ掘り

月曜日、異学年合同(1・6年, 2・5年, 3・4年)でサツマイモの収穫を行ないました。2年目の今年は、トラクターで深く耕起してもらいマルチをかけずに栽培しましたが、やはり水はけが悪く、前々日までの雨の影響もありスキー山側がぬかるむ状態でした。そこで来年度は、今年のうちにと殻を入れて耕起し、できるだけ水はけが良くなるように工夫してサツマイモ栽培に挑戦したいと考えています。



雨天のため体育館で行なわれた(上撮写真)なべっこでしたが、5・6年生が中心となって(上・中撮写真)43グループ全てがおいしいイモの子汁をつくり、みんなで仲良く食べることができました。その後、グループごとにトランプなどで楽しく遊び(上撮写真)、後片付けもみんなで分担して行い、縦割りグループの絆を深める良い機会となりました。



昨日はマラソンでした!!

3年生を皮切りに(壮)2校, 学年ごとに競技を行ないました。当日はたくさんの声援を受けながら(壮)全力で走ることができました。最後の挑戦だった6年生の1位は、○○○○さんと○○○○さんでした。(註)下(註)



ぶどう畑の宝 頑張ってもすぐ結果が出ないときは…

お父さんと3人の息子たちがいました。4人は広いぶどう畑をもっていました。4人とも真面目で、たいへんな働き者でした。

ある日のこと、お父さんは病気になってしまい、自分の命が残り少ないことを知りどうすれば子どもたちが真っ直ぐ生きていってくれるだろうかと考えて、子どもたちを枕元に呼ぶと言いました。「愛する子どもたちよ、私の命はやがて終わるだろう。私の持っている貴重な財産はぶどう畑の中に隠されている。ゆっくりと畑を掘って探し出すがよい。その宝を手にして幸せになるんだぞ」お父さんはこう言い残して、息を引き取りました。

それからしばらく経って子どもたちは手分けをして広い畑を掘り返しました。しかし、来る日も来る日も汗を流して畑を隅から隅まで掘り返しましたが、宝を見つけることはできませんでした。

やがて子どもたちは宝をあきらめ、また、せっせと畑仕事に精を出しました。そして、秋になりました。ぶどう畑には今年もたくさんのぶどうがなりました。今までのどの年よりもすばらしいぶどうがたくさんたくさんなりました。それらを町へもっていくと、とても高い値段で売れました。そして3人に、たくさんのお金が入ってきました。

「そうか、分かったぞ！」ある日、息子の1人が言いました。「ぶどう畑の宝の意味がぼくには分かったんだ!」「ええ? 一体どういうことなんだい?」あとの2人が聞きました。

「お父さんが宝が埋まっていると言ったのは、一生懸命、畑仕事をしろということだったのさ。そうすれば、立派なぶどうがたくさんとれる。それがぼくたちにとっての宝ということなんだ。てっきり畑の下に何か埋まっているものだとばかり思っていたけれど、それは違っていたんだ。今年は、ぼくらが宝さがしで畑をあちこち掘り返したのが、たくさん畑を耕したことになって、ぶどうがたくさんとれたのさ」

その説明を聞いて、2人も納得しました。父親が残した宝物を、しっかりと受け取った3人は、その後も苦勞をいとわず、真っ直ぐに生きていったのでした。

前期終業式で上記のようなこととお話ししました。いかがでしょうか。この話の中の父親のように、親は誰しもが、子どもに真っ直ぐ生きてほしいと願うものだと思います。そのために、親は何をしたらいいのでしょうか。そして、何をしてはいけないのでしょうか。

◆目に見えない努力を続ける力を与えてやりましょう

果物・野菜・花・米などを育てるための世話は、どれも毎日手を抜くことは出来ません。実りを目にするまで安心は出来ません。人は目先のことにとらわれがちですが、今頑張ったことがすぐ形になるとは限らないので、焦りを感じることもあります。この話は、なかなか努力が結果につながらない時に頑張る元気を与えてくれる内容だと思います。

子どもが頑張っているのなら、結果が出なくても責めてはいけないと思います。ぶどう畑のお父さんのように「宝物が埋まっている」と子どもを励ますのです。夏休み明け集会で子どもたちにお話した「チームを支えたスーパーサブ」にもあるように、目に見えない努力こそ貴重な宝物でもあります。親から見て『無駄な努力』に思われる行動に対して、「やっても無駄だからやめろ」「将来の何にも役に立たない」などと理由付けして、楽な方・安全な方に向かわせた場合、失敗はせずに済みますが生きる力にはなりません。取り返しのつく失敗を繰り返しながら、耐性や解決能力を身に付けていくことが大切です。内心は不安でも泰然自若とした態度を見せる親のゆとりが、子どもを伸ばす条件でもあるのです。